

現地活動記録_参加者:久米、大久保、Ms.Wilma

2023年	活動	宿泊地
4月17日(月)	・東京からマニラへ移動	マニラ
4月18日(火)	・現地サポーターとの打ち合わせやNICA幹部との面談	
4月19日(水)	・AM4時の便でカガヤンデオロに移動 ・Luyungan high school訪問 ・TESDAのProvincial Training Center – Bukidnon訪問	カガヤンデオロ
4月20日(木)	・Philippines Coast Guard 訪問 ・Lantud村の訪問	
4月21日(金)	・活動のまとめや今後の計画の協議など	
4月22日(土)	・マニラへ移動	マニラ
4月23日(日)	・休養	
4月24日(月)	・活動のまとめや今後の計画の協議など	
4月25日(火)	・日系企業との面談及び協業に関する打ち合わせ	
4月25日(水)	・マニラから東京へ移動	—



今回活動を共にした人たち

- NICA 地方局の局長や職員の皆さん
 - _ National Intelligence Coordinating Agency (国家情報調整機関)
- PhilFIDA 地方局の局長
 - _ Philippine Fiber Industry Development Authority (フィリピン繊維産業育成機構)
- Luyungan high school
 - _ ブギドノン州にある先住民族の高校の顧問や校長、教員、生徒たち
- TESDA 地方局傘下の訓練校の校長と指導員のみなさん
 - _ Provincial Training Center – Bukidnon (Valencia)
- PCG フィリピン北東ミンダナオ沿岸警備隊の隊員たち
 - _ Philippines Coast Guard District North Eastern Mindanao
- Lantud村の人たち

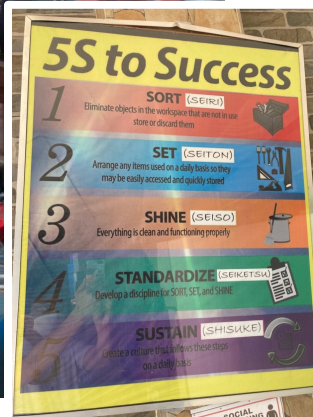
活動紹介 ① - Luyungan high school訪問



前回に引き続き、Luyungan High Schoolを訪問し生徒たちから民族舞踊での歓迎を受けました。ブギドノン州には、大きく分けて7つの先住民族が住んでいるそうです。ミンダナオ紛争による影響で開発の遅れた地域の中でも、特に先住民族の生活は困窮していると聞きました。

右の写真で向かって左から、TESDA本部職員（私の20数年前の同僚）、地元のTESDA訓練センター校長、内務省地方局長、本高校の校長、久米、大久保、フィリピン繊維産業育成機構地方局長、本高校の顧問です。本高校を拠点として、これらの政府出先機関メンバーとコラボした活動を模索し始めました。

活動紹介 ② – Provincial Training Center – Bukidnon (Valencia)



ミンダナオの貧困削減を、「地域の人材育成によって生計向上を実現させる」のが私たちの当面の目標です。それには、人材育成のプロ集団でもあるTESDAを巻き込むことが肝要です。そこで、地元のTESDA傘下の訓練センターを視察しました。

JICAは、TESDAをカウンターパートとして、1994年4月から5年間「フィリピン職業訓練向上プロジェクト」を実施しました。私（久米）は、マニラにあるTESDA本部に隣接する同プロジェクトで、1996年5月～1999年3月の間、職業訓練のカリキュラムや教材開発専門家として勤務しました。その縁もあって、プロジェクトの同僚の一人だったWilma（ウイルマ）さんの強い、強い誘いを受けてこのような活動に至った経緯があります。

活動紹介③ - ミンダナオ沿岸警備隊の訪問



写真左:北東ミンダナオ沿岸警備隊を訪問し副局長(右から3人目)と面談

写真右:隊員二人(左の写真に向かって左側の女性と男性)が私たちの支援するLantud村に同行した。

(彼らのLantud村訪問の目的は次のスライド参照ください)

沿岸警備隊とは、今後も彼らの訓練施設の研修プログラムやカリキュラム開発の支援を行う予定です。

活動紹介④ - Lantud村の訪問



最近30分ほど離れた町からパン屋さんが店舗付きバイクで来てくれるようになりました。どれも1個5ペソ(約12円)だそうです。

今回は沿岸警備隊から隊員2名も私たちが支援するLantud村に同行しました。なぜ沿岸警備隊が内陸部の山間地の村に同行したのか不思議でしたが、沿岸(えんがん)とは「海、湖、大川などの水域に沿った場所のこと」を意味するので、大きな河川における自然災害時の救難活動の下見や住民への緊急救命スキルの訓練提供などの支援を計画していくようです。

また、前回から旧知の仲になったフィリピン繊維産業育成機構のユージンさんからは、アバカ生産性拡大や農園の拡張の要点、今後のアバカ生産者への研修などの説明が行われました。

私からは日本人の活動メンバーとして役割の説明や、さらなる交流の継続を約束しました。

活動⑤ - 車窓から垣間見た貧困



ミンダナオは40年以上に及ぶ国内紛争により、開発が大きく遅れてきた歴史があります。開発の遅れは、道路網整備、電力供給などのインフラ未整備で地域経済発展を阻害し、住民への教育や医療の提供を阻んでいます。

さらに、元紛争地帯のイメージは風評被害を生み、偏見となって、圏外の人々には恐怖心を抱かせてしまっています。そのことが、開発速度を鈍らせ、多くの人たちが取り残されています。

今回の現地業務で、ブギドノン州の州都であるマライバライ市周辺を訪問した際、移動中の車窓から粗末な住居が点在する風景を垣間見ました。数キロに渡り、未舗装道路沿いにはコカコーラを買う小売店も無く、電線さえも見当たりません。

UNDP(国連開発計画)では「**教育、仕事、食料、保険医療、飲料水、住居、エネルギーなど最も基本的な物・サービスを手に入れられない状態のこと**」を**貧困と定義**しています。まさしく、絵に書いたような貧困を垣間見た気がします。

活動のまとめと今後の活動計画

JICA草の根パートナー型の申請によるブギドノン州の生計向上支援

活動のまとめ

- 昨年10月の現地調査活動から得た経験や情報をもとに、プロポーザルを修正し、11月11日にJICA東京に提出しましたが、残念ながら不採択でした。
- 不採択の主な原因は、①現地の貧困の現状や具体的な現地活動の進め方、現地における安全確保の方法などプロポーザルの説得力不足 ②本JICA事業への申請数が、採択約30%と競争率が高かったことが挙げられていました。

今後の活動計画

- 今回の現地調査で、ミンダナオ北部ブギドノン州でも特に開発が遅れている先住民族のコミュニティ開発や生計向上支援活動に的を絞るべきだと痛感しました。
- 幸い、4年前に設立された先住民族の高校(生徒)を拠点に先住民族居住地の情報収集が可能だと気がつき、貧困の現状把握と生計向上の仕組みづくりを継続する予定です。

研修プロバイダー事業による企業内教育システムや技能伝承研修の提供による地域産業人材支援

活動のまとめ

- (株)PASCは国内やマレーシアをはじめとするJICAプロジェクトを介して企業内教育システム構築やOJT(先輩から後輩への作業指導)などの指導法や教材開発などの導入経験が豊富です。
- それを元に、今回の後半の活動では沿岸警備隊の訓練施設での新しいコース開発やカリキュラム開発支援を行う予定でした。しかし、ミンドロ地方における海難事故によるオイルの海域汚染対策のため警備隊の活動が継続中であり、私たちの計画は中止となりました。

今後の活動計画

- 前回の活動で開発したアバカ生産コースの教材開発や農民への研修実施支援を継続します。
- 今回滞在中に某日系企業との協業として、日系企業等への人材派遣の為の研修コース開発、指導の進め方などでのコラボの必要性を共有することができました。これを契機にフィリピンでの研修実績を伸ばし、ミンダナオ地域の企業人材育成への貢献を目指します。